

希望をはぐくむメッセージ『大切なあなたたちへ』

明日を信じて生きる

さいたま市教育委員会委員長
大谷 幸男

皆さんは、星野富弘さんという方を知っていますか？星野さんは、昭和21年生まれで、群馬県の出身です。大学卒業後に中学校の体育教師として勤務しますが、わずか二ヶ月後に、手足の運動機能をすべて失ってしまいます。体操部の指導中に模範演技ということでの宙返りに失敗して頭からマットに落ちてしまったのです。入院生活は九年間にも及び、その間、生きていても仕方がないと何度も何度も死ぬことを考えたそうです。しかし、周りの多くの人たちからの励ましに「人は生きているのではなく生かされている」、だから、「人が生きることは、権利でなくて義務である」と考えるようになったそうです。そして励ましてくれた人にお礼の返事を書きたくなって、首から下は全く動きませんので、なんと口に筆をくわえて字や絵の練習を始めました。

人は誰でも必ず苦しい時、悲しい時、つらい時に会います。最も大切なことは、それらをどのように乗り越えるかだと思います。

冬があり夏があり
昼と夜があり
晴れた日と雨の日があつて
ひとつの花が咲くように
悲しみも苦しみもあつて
私が私になってゆく

これは、星野さんの詩画集「花よりも小さく」の中で、きれいなサフランの花の絵とともに書かれた詩です。

皆さんが常に明日への希望をもって生きることで、皆さんらしく大きく成長されることを心から祈っております。

保護者の皆様へ



さいたま市教育委員会

いじめや自殺など子どもをめぐる痛ましい事件が発生しております。さいたま市教育委員会は、市にゆかりのある方々に御協力をいただき、子どもたちに「希望をはぐくむメッセージ」をお届けすることといたしました。

学校では、子どもたちにメッセージを読み聞かせました。ぜひ御家庭でも話題にしていただくようお願いいたします。